

金持地区にある林道朝刈線の終点付近から尾根沿い標高1100m付近まで登るとブナ原生林が広がっています。「自然のダム」とも言われ、保水力に富み豊かな水や生命を育むブナ。今も静かに森の中で生き続けるブナ原生林を訪ねました。

標高1100m付近に広がるブナ原生林
樹齢約250年を越す巨木も点在

母なる森の恵み

ブナよ。

雲の切れ間から日が指し、葉を落とした木肌が鮮やかに浮かびあがる。日野町の一部地域には、ブナ原生林が今もなお残されています。

秋の深まる11月5日、南大山を中心にブナ林の調査を続けている長尾昭さん(江府町)の案内でブナ林を訪ねました。ルートは、金持地区の林道朝刈線終点付近から尾根沿いに登るコース。行く手を阻む背丈まで伸びた笹をかきわけながら道なき道を進む。後方に宝仏山を望み標高1100m付近まで登ると、ブナ原

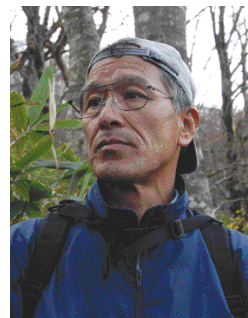
生林に出遭えます。

ブナ林(原生林と2次林を含む)は、岡山県と江府町境付近の尾根沿い斜面に広がり、現在のところ約7割(原生林は約4割)が確認されています。この周辺は町有林で、大正時代は官行造林地。植樹された杉なども一部見られます。中には幹回り4・6mの樹齢約380年の巨木や幹回り

3m(樹齢約250年)を越す木も数本確認されています。ブナは油質が少なく腐りやすいことから寿命200年から300年といわれますが、

どの木も巨木になれるとは限りません。花を咲かせるには約50年、実をつけるには約80年。樹木の中では比較的ゆっくりと成長していきます。ブナは、日本の冷温帯を代

案内人



長尾 昭さん(江府町)

ながお・あきら

9年前から南大山を中心にブナ林の調査を続ける。烏ヶ山(江府町)で大山最大のブナを見つけ、花見山・三国山(日南町)でもブナ原生林を確認する。

表する樹木で毎年大量の葉を落とします。落ち葉の層が水分を蓄えることから「自然のダム」とも言われるほど保水力に富みます。

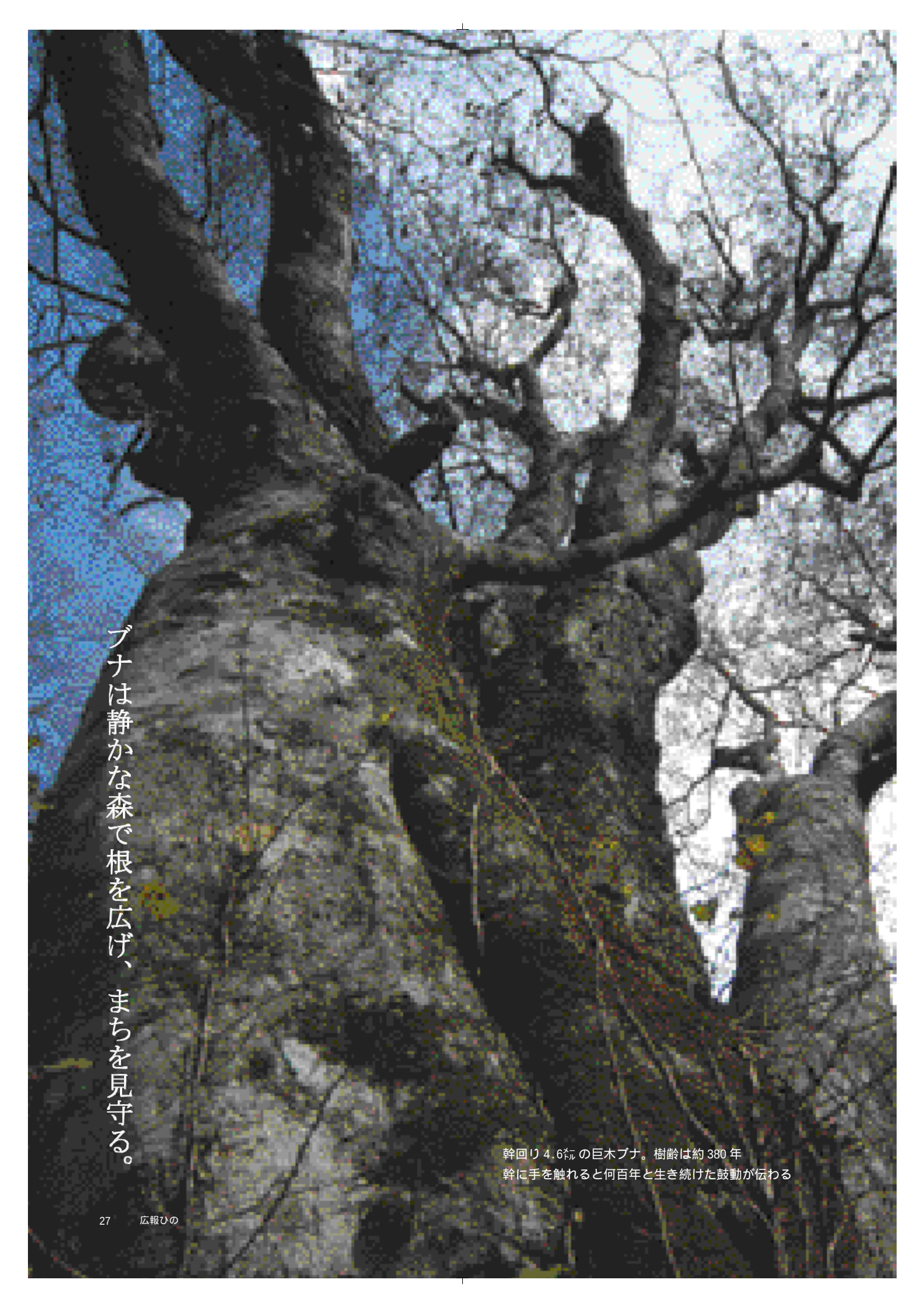
表土の厚さは数10cm。1cmの表土ができるのに100年以上かかります。長い年月をかけて作られた土壌は、豊かな水を作り多くの生命を育み、優れた保水力で水量を調節しながら水害を防ぎます。

生命に欠かすことのできない水と深い関係を持つブナも環境の変化で危機を迎えています。地球の温暖化がこのまま進むと、21世紀末には、国内でブナ育成の適性地域が現在の1割以下に減少。中国、

四国、九州地方では、ほぼ全滅してしまうという研究予測も出ています。

長尾昭さんは「多くあったブナ原生林も伐採され、今では極わずかしか残っていません。限られた資源を守るには、一人ひとりが現状やその果たす役割など理解を深めていくことが大切だと思います。いつまでも豊かな自然が残されることを願っています」と話します。

ブナは、静かな森の中で芽吹き、樹を太らせ、葉を落とし、厳しい冬に耐える。いくつもの季節を乗り越えて生き続けています。ずっとこのま



ブナは静かな森で根を広げ、
まちを見守る。

幹回り4.6mの巨木ブナ。樹齢は約380年
幹に手を触れると何百年と生き続けた鼓動が伝わる